

MATSUDO CITY MONTHLY NEWS 松戸市感染症情報



発行日：2025年5月14日
発行：健康医療政策課
次回は6月11日 発行予定

表中の赤字は警報基準値超え

定点医療機関 あたりの報告数	年間を通して流行する感染症								今流行している感染症							
	新型コロナ				急性呼吸器感染症 (ARI)				感染性胃腸炎				A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎			
	4/7~ 4/13	~4/20	~4/27	~5/4	4/7~ 4/13	~4/20	~4/27	~5/4	4/7~ 4/13	~4/20	~4/27	~5/4	4/7~ 4/13	~4/20	~4/27	~5/4
松戸保健所管内 (松戸、流山、我孫子)	2.14	2.40	1.63	1.41	105.5	109.28	106.65	104.12	10.69	10.08	8.46	6.50	7.62	8.77	8.69	7.92
定点医療機関数	21	20	19	17	12	18	20	17	13		12		13		12	
前週比	↓	↑	↓	↓	-	↑	↓	↓	↑	↓	↓	↓	↑	↑	↓	↓
コメント	【松戸保健所管内】年代別では大きな差はありませんでした。 0歳から29歳……36% 30歳から59歳……36% 60歳以上……29%				4月7日から定点医療機関による報告の対象となりました。 換気、手洗い・手指消毒、せきエチケットが有効です。				高温多湿になると細菌が繁殖しやすくなるため、細菌を原因とした感染性胃腸炎が増えます。 食品の加熱、手洗いを十分に行いましょう。				松戸保健所管内では、前週と比較するとやや減少しましたが、国が定める警報基準値「8」を超えている週もあるため、基本的感染対策を心がけましょう。			
千葉県	2.11	1.92	1.50	0.86	55.89	63.47	74.58	64.03	6.58	6.07	6.02	3.94	3.08	3.19	3.97	2.63
前週比	↓	↓	↓	↓	-	↑	↑	↓	↑	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↓
東京都	1.20	1.03	0.82	0.62	43.95	51.01	58.69	50.03	7.79	7.60	8.64	6.53	2.55	3.46	4.03	2.95
前週比	↓	↓	↓	↓	-	↑	↑	↓	↑	↓	↑	↓	↑	↑	↑	↓

急性呼吸器感染症(ARI)が5類感染症に追加

令和7年4月7日から急性呼吸器感染症（ARI）が感染症法の5類感染症に位置づけられ、定点医療機関による発生動向の把握が行われるようになりました。

ARIとは上気道炎と下気道炎を起こす病原体の総称

急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎）または下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を起こす病原体による症候群の総称です。せき、のどの痛み、呼吸困難、鼻水、鼻づまりのいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例が調査の対象となります。

未知の感染症に備えて新たに把握の対象に

ARIは飛沫感染等により周囲の方にうつしやすいことが特徴です。流行しやすいARIの発生動向の把握と国民・医療関係者への情報共有や、未知の呼吸器感染症が発生し増加し始めた場合に迅速に探知する体制の整備をするために、流行状況を平時から注意深く把握する対象となりました。

就業や登校に制限はありません

- ARIが5類感染症に位置づけられることで、就業制限や登校制限の対象とはなりません。
- インフルエンザ等の個別の感染症について定められている運用についても変更はありません。
- 風邪のために病院に行く際の負担も変わりません。医師が判断した一部の方は、検体採取に協力することがあります。



発熱と発疹の症状がある時は受診の前に電話を！

海外において麻しんが流行しており、帰国後に発症する方の報告が増えています。帰国後2週間程度は、**高熱や全身の発疹、せき、鼻水、目の充血**などの症状に注意してください。麻しんを疑う症状がある場合は、かかりつけ医に事前に電話で相談し、指示に従って受診しましょう。

百日咳が増加しています

千葉県の2025年の18週（～5/4）までの累計届出数は479例となっており、過去7年の同時期との比較では、最も届出数の多かった2019年の届出数を超えています。10歳から15歳未満が約半数となっています。

けいれん性のせき発作が特徴

百日咳菌による感染症で、飛沫感染します。7～10日程度の潜伏期間を経て、かぜ症状がみられ、徐々にせきが強くなっていきます。その後、短いせきが連続的に起こり、せきの最後に大きく息を吸い込み、たんを出しておさまるという症状を繰り返します。乳児は重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至ることもあります。大人はせきが長期間続きますが、やがて回復に向かいます。

生後2か月に達したら早めに予防接種を

有効な予防方法は予防接種です。5種混合ワクチン（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ・Hibワクチン）の定期接種対象期間に早めに受けましょう。